

日本国際理解教育学会

第24回 研究大会プログラム

主催
日本国際理解教育学会

共催
国立大学法人 奈良教育大学

後援
奈良県教育委員会（申請中）・奈良市教育委員会（申請中）

会員の皆様方には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、日本国際理解教育学会第24回研究大会を下記の日程で開催することになりました。会員の皆様はもとより、国際理解教育に興味をお持ちの方々にも、お誘い合わせの上、多数のご参加を賜りますようお願い申し上げます。

第24回研究大会実行委員長 加藤 久雄

大会会場：国立大学法人 奈良教育大学（奈良市高畑町）

大会日程：2014年6月14日（土）・15日（日）

第1日 6月14日（土）

9:00	9:30	12:00	13:00	14:00	17:00	17:30	20:00
受付	自由研究発表	昼食	総会	シンポジウム	移動	懇親会	

第2日 6月15日（日）

9:00	9:30	12:00	13:00	16:00
受付	自由研究発表	昼食	課題研究発表	

連絡先：日本国際理解教育学会第24回研究大会実行委員会事務局

〒630-8528 奈良市高畑町 奈良教育大学 次世代教員養成センター

ESD・課題探究教育部門 中澤静男研究室

Tel・Fax：0742-27-9269

E-mail：nakazawa@nara-edu.ac.jp

第1日目 6月14日(土)

自由研究発表 第1分科会～第6分科会(9:30～12:00)

自由研究発表は、発表20分、質疑応答10分の30分です。当日は、タイムキーパーから15分、20分、30分に鈴でお知らせします。30分の時には、発表の途中であっても直ちに終了をお願いしますので、ご了承ください。
※司会者のお名前に関しましては、五十音順に掲載しております。

◆第1分科会：201教室

司会：植西浩一(広島女学院大学)

釜田 聡(上越教育大学)

- (1) 開発教育におけるファシリテーターとしての教師とは ー意識変容の学習を支援するためにー
山中 信幸(柳学園中学・高等学校)
- (2) 国際化時代の国語科教員養成 ー広島女学院大学の取り組みー
植西 浩一(広島女学院大学)
- (3) Social Studies Teachers' Suggestions for History Education in Korea and Japan
Heo, Shinhye (Hannam University)・釜田 聡(上越教育大学)
- (4) 第二次世界大戦に関する歴史教育：ドイツとイギリスの比較検討
柴田 政子(筑波大学)

◆第2分科会：203教室

司会：渋谷 真樹(奈良教育大学)

中山 京子(帝京大学)

- (1) ブータンの教育戦略 ーGNHと国際理解ー
荒川 裕紀(北九州工業高等専門学校)
- (2) 地球市民になるための留保条件 ー他者との関係性に着目してー
金野 誠志(鳴門教育大学)
- (3) 地域社会の多文化教育 ー江原道を中心にー
KIM Kapsung (SINDONG elementary school)
- (4) 国際理解教育におけるパフォーマンス評価としてのフィールドワーク実践の分析
ーIBスクールでの「多文化マップ」を事例にしてー
津山 直樹(中央大学大学院)

◆第3分科会：204教室

司会：谷口 尚之(奈良教育大学附属中学校)

田渕 五十生(福山市立大学)

- (1) ESDとボランティア活動の関わり ー十津川道普請を通してー
中澤 静男(奈良教育大学)
- (2) "Mixed-Blood" and Multiculturalism in Korea
Geon-Soo Han (Kangwon National University)
- (3) ESDによる学校経営と教育実践の変革
ー子ども、教員、保護者、地域みんなが元気になるための取り組みー
中井 精一(堺市立家原寺小学校)
- (4) 地域の文化遺産を通してグローバル教育・ESDに迫る実践
ー福山駅頭の岡倉天心像を通してー
田渕 五十生(福山市立大学)

◆第4分科会：205 教室

司会：井ノ口 貴史（京都橘大学）

岩坂 泰子（奈良教育大学）

- (1) 国際バカロレア日本語 DP 導入の経緯と可能性

福山 文子（中央大学）

- (2) 多言語多文化教材と評価 ―母文化の脱中心化を目指して―

岩坂 泰子（奈良教育大学）・横田 和子（目白大学）

- (3) 中国の日本語教科書における国際理解教育の視点 ―教科書『好朋友』の分析を中心に―

鄒 聖傑（中央大学大学院）

- (4) リンガフランカとしての英語と異文化接触 ―コソボ共和国と日本の大学生の事例より―

生田 祐子（文教大学）

◆第5分科会：206 教室

司会：橋崎 頼子（奈良教育大学）

嶺井 明子（筑波大学）

- (1) みんなく展示「武器をアートに―モザンビークにおける平和構築」を活用した高等学校公民科授業の構成

秋山 明之（神戸市立楠高等学校）

- (2) 人権教育におけるアンネ・フランク巡回展の活用 ―日本における可能性と課題―

吉谷 武志（東京学芸大学）・伊藤 亜希子（福岡大学）

- (3) 戦後の日本の英語教育は、HIROSHIMAをどう教えてきたのか

―戦後の日本の中学校検定英語教科書の題材における平和教育―

長谷川 功（桐蔭学園中学高等学校）

- (4) 人権を基礎におくシティズンシップ教育の学習過程と教師の役割

―欧州評議会の教師用資料の分析を通して―

橋崎 頼子（奈良教育大学）

◆第6分科会：208 教室

司会：宇土 泰寛（椋山女学園大学）

石森 広美（宮城県仙台二華高等学校）

- (1) 国際理解教育を通じた高大教育接続の可能性

石森 広美（宮城県仙台二華高等学校）

- (2) A Case Study on Global Citizenship Education for Young Children through Virtual Intercultural Exchange

Jee-Hyun Bae (Sungshin Women's University)

- (3) 海外研修の教育的意義

空閑 知子（京都女子中学校高等学校）

- (4) 西アフリカ・ブルキナファソ国における水問題と大陸間教育活動

―ワガドゥグー市のル・クルーゼ学園小学校の取り組みを中心に―

宇土 泰寛（椋山女学園大学）

総 会：講堂（パルテノン）（13：00～14：00）

シンポジウム（14：00～17：00）

シンポジウム1：「ESDと国際理解教育」：講堂（パルテノン）

司会：中澤 静男（奈良教育大学）
指定討論者：及川 幸彦（宮城教育大学）

シンポジスト

浅井 孝司（ESD国際会議推進局長）	日本のESD
永田 佳之（聖心女子大学）	海外のESDの動向
田渕 五十生（福山市立大学）	文化遺産を通じたESD

「持続可能な開発に関する世界首脳会議」（2002年、ヨハネスブルグ・サミット）において日本が提唱した「国連ESDの10年」が、最終年となります。日本国際理解教育学会においても、これまでESDに関わる研究や教育実践が蓄積されてきていることに鑑み、今まで行われてきた、あるいは現在進められてきているESDの取組を総括するとともに、2015年以降のESDの方向性を考えたいと思います。

シンポジウム2「ことばの教育と国際理解教育」：大講義室

司会：吉村 雅仁（奈良教育大学）
指定討論者：横田 和子（目白大学）

シンポジスト

山西 優二（早稲田大学）	ことばの教育と教材
古石 篤子（慶應義塾大学）	小学校における多言語活動の在り方
アルギロ・ムチドゥ（ギリシャアリストテレス大学）	多言語活動と教員研修

本学会の特定課題研究から始まった「ことばと国際理解教育」に関わる研究・実践が、科研費助成プロジェクトへと発展し、今年がその最終年度となります。これをふまえて、その成果を学会全体に共有・還元すると同時に、国内外の同様の取り組みも含め「国際理解教育」を加味した「ことばの教育」の今後の展開を考えてみたいと思います。

交流会（17:30～20：00）

会 場：奈良教育大学生協同組合食堂
会 費：一般 5,000 円、学生 2,000 円

第2日目 6月15日(日)
自由研究発表第7分科会～第12分科会(9:30～12:00)

◆第7分科会：201 教室

司会：小嶋 祐伺郎（奈良教育大学附属中学校）
永田 佳之（聖心女子大学）

(1) ESD in Tourism Education in Korea

Changkee Min (Dongseo University)

(2) ESD Program in Early Childhood Curriculum

Hyunduk Kim (Koje College)

(3) ESD の観点に着目した世界史教育内容開発 ―世界遺産を教材とする論理と方法―

祐岡 武志（奈良県立法隆寺国際高等学校・兵庫教育大学大学院）

(4) ESD における「自己と社会を変容させる学び」

―ユネスコ本部および国連欧州経済委員会による理論枠組みの批判的検討―

曾我 幸代（法政大学）・永田 佳之（聖心女子大学）

◆第8分科会：203 教室

司会：岩本 廣美（奈良教育大学）
内山 知一（奈良教育大学）

(1) 食を通して、地域から歴史、外交をとらえる小学校社会科授業づくりの研究

松村 淳（岩国市教育委員会）

(2) 小学校における多文化教育実践の試み

太田 満（川崎市立稲田小学校）

(3) フェアトレードワークショップの現在 ―フェアトレード無謬説を越えて―

風巻 浩（神奈川県立麻生高等学校・聖心女子大学）

(4) 多文化共生を基盤としたユネスコスクールとしての取り組み

―外国人留学生との交流や、JICA を活用した実践を通して―

林 敏博（名古屋市立蓬来小学校）

◆第9分科会：204 教室

司会：南 美佐江（奈良女子大学附属中等教育学校）
山西 優二（早稲田大学）

(1) 国際ボランティア講座とフィリピンスタディツアーの取り組み

―アートマイル国際交流壁画共同制作の体験と小学校支援を通して―

清水 和久（金沢星稷大学）

(2) JICA 教師海外研修の変遷と国際理解教育

―一括募集期（1965～2003年）の報告書の分析を中心として―

松井 克行（西九州大学）

(3) 自治体によるスタディツアーの現状と課題

―コーディネーターとしての一考察―

友永 雄吾（国立民族学博物館）

(4) 国際理解教育におけるパースペクティブ意識

南雲 勇多（早稲田大学大学院）

◆第10分科会：205教室

司会：吉村 雅仁（奈良教育大学）

渡辺 淳（日本大学）

- (1) 「言語・文化」の授業を中心とした大学と附属小学校の協働
－教員養成大学が有するリソースの統合的利用による異文化理解教育の試み－
和泉元 千春・岩坂 泰子・吉村 雅仁・林 綾（奈良教育大学）

- (2) 国際理解教育と演劇教育の意義
宮野 祥子（早稲田大学大学院）

- (3) 多言語活動に開かれた日本語教材開発の試み
服部 圭子（近畿大学）・岡本 能里子（東京国際大学）・佐藤 美和（立教大学大学院）

- (4) Teaching Peace, Culture and Eco through English
Kate Min（GPV, KNC for UNESCO）

◆第11分科会：206教室

司会：成田喜一郎（東京学芸大学）

森田真樹（立命館大学）

- (1) イスラエル考現学－多文化共生をめぐる－
辻 良隆（大阪市立汎愛高等学校）

- (2) 「共に生きる」視点からの国際理解教育
－総合的な学習における学びからの多文化共生－
菊地 恵美子（郡山ザベリオ学園中学校）

- (3) 文化的多様性について考える授業実践－刺青を題材として－
木村 真冬（お茶の水女子大学附属中学校）

- (4) 学びの環境が厳しい子どもたちに寄り添う－多文化共生教育2年目の実践から－
孫 美幸（日本学術振興会特別研究員（RPD）・京都大学人文科学研究所）

◆第12分科会：208教室

司会：大津和子（北海道教育大学）

河原和之（大阪教育大学）

- (1) Fostering peace through South-East Asia shared Histories
KIM, Kwang-Hyun（金光炫）（APCEIU）

- (2) わが街ノーベル平和賞－主体的に考え行動する探究学習－
河原 和之（大阪教育大学・立命館大学・近畿大学）

- (3) 北京市朝陽区における国際理解教育カリキュラム開発
姜英敏（中国北京師範大学国際・比較教育研究院）・
首都師範大学実験学校、京通小学校プロジェクトチーム

- (4) 交流学習活動で育成される「伝え合う力」の実践研究
－小学3年生の国際交流学習と国内交流学習での実践を通して－
西野 聡子（金沢市立米泉小学校）・清水 和久（金沢星稜大学）

特定課題研究：大講義室（13：00～16：00）

◆「国際理解教育における実践研究の視座」

司会：井ノ口 貴史（京都橘大学）、林敏博（名古屋市立蓬来小学校）

趣旨説明：嶺井明子（筑波大学）

第一部 報告

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1. 国際理解教育研究の到達点と課題 | 杉田 かおり（筑波大学） |
| 2. 国際理解教育における実践研究の視座 | 渡辺 淳（日本大学） |
| 3. 学校事例にみる実践研究 | 宇土 泰寛（椙山女学園大学） |
| 地域事例にみる実践研究 | 山西 優二（早稲田大学） |

第二部 ワークショップ

4. グループ討論
5. 質疑応答

総括

大津 和子（北海道教育大学）

本特定課題研究は建久・実践委員会の3年間の共通テーマ「国際理解教育における教育実践と実践研究」の第1弾となる企画です。実践者の多い本学会においては、理論と実践の統合は本学会創設以来の課題でした。研究委員会と実践研究委員会が組織的に統合したことを機に、このテーマに新しい角度から迫っていくことになりました。

本研究の目的は、実践者による臨床的実践研究のスタンダードの確立と共有化にあります。次に実践者自身による臨床的研究スタイルの確立にいたる理論的見通しについて考えます。最後に、学校における実践、地域における実践を事例として考察を加えます。

当日は、4本の報告をもとにグループに分かれて意見交換を行うワークショップ形式での研究会を企画しています。多くの会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。

大会参加費・交流会費・昼食等

本大会の参加申し込み手続きは、日本旅行に委託しています。5月20日（火）までに、下記のWebサイト（ホームページ）の参加登録ページで行ってください。Webサイト上では、参加登録のほか、交流会の申し込みも可能です。当日の受付は混雑が予想されますので、大会参加費、交流会費のお支払いにつきましては、5月21日（水）までにお支払いいただきますようお願いいたします。銀行振り込み、コンビニ決済がご利用できます（手数料はご負担ください）。

期限直前に支払われた方は、念のため、「支払領収書」「振込受領証」など、お支払いを証明するものを、当日お持ちください。お支払いが確認できない場合は、当日お支払い頂くこともありますので、ご注意ください。

参加申し込み用Webサイト：<https://v3.apollon.nta.co.jp/kokusairikai-jr/>
(Webサイトには、日本国際理解教育学会のHPから入ることができます。)
参加申込：5月20日（火） 大会参加費・交流会費の振込期限：5月21日（水）

◆大会参加費

一般：事前支払 3,000円 当日支払 3,500円 学生：事前支払・当日支払とも 2,000円

※当日の受付は混雑が予想されますので、事前にお振込みいただきますよう、お願い申し上げます。交流会費も一緒にお支払いいただけます。なお、お振込み頂きました額は、不参加の場合でも返金しかねますので、ご了承ください。

- ◆ 昼食 6月14日(土)・15日(日)の両日とも、大学生協をご利用いただけます。(メニュー限定)
- ◆ 交流会 日時: 2014年6月14日(土) 17:30より
会場: 奈良教育大学生協同組合食堂 会費: 一般5,000円 学生2,000円
- ◆ 大会当日の案内

2014年6月14日(土)、15日(日)ともに、午前9時より受付を開始いたします。事前申し込みされた方は、受付にて名札、大会抄録をお受け取りください。当日参加の方は、当日参加申込書にご記入の上、受付にて参加費をお納めください。

交通アクセス

奈良教育大学ホームページ (<http://www.nara-edu.ac.jp/access/>) を参照してください。

研究大会会場の奈良教育大学へは、公共交通機関をご利用ください。近鉄奈良駅あるいはJR奈良駅より市内循環バスで約10分、高畑町(奈良教育大学・210円)で下車すぐです。

